

定員制
会員優先

2daysコース

東京会場

3/19・20

大阪会場

4/1・2

開催

犬の 後肢 膝蓋骨 脱臼

に対する内固定法 ドライラボセミナー

スタンダードな治療法をマスターするために

講師・インストラクター

原 康 先生

日本獣医生命科学大学 獣医外科学研究室 教授

原田 恭治 先生 同大学研究室

神野 信夫 先生 同大学研究室

定員

各会場

18

名限定

※ 本実習は学際セミナー会員優先です。
※ 受講者には事前予習動画を配信します。

協力

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

開催日時 (2日コース)

東京	会場	日本経済大学 (東京都渋谷区)
	1日目	平成29年 3月19日(日) 13:00~18:00
	2日目	20日(月・祝) 8:30~16:30
大阪	会場	エコーペットビジネス総合学院 (兵庫県尼崎市)
	1日目	平成29年 4月1日(土) 13:00~18:00
	2日目	2日(日) 8:30~16:30

※ 各会場とも初日終了後に懇親会を行います(自由参加)。

※ 参加申込者には詳しい会場案内図と持参品リストをお送りいたします。

開催にあたって

小動物整形外科領域において、犬の膝蓋骨脱臼は後肢跛行を誘発する一般的な膝関節疾患として認識されています。跛行の程度は無症状のものから、大腿脛関節の伸展域が失われる結果、歩行困難となる重症のものまで多様です。また外傷性脱臼以外、その背景には先天性素因が関与していることが強く疑われているものの、現時点でその病態発生機序は明らかにされていません。その中で臨床の現場においては治療を迫られる結果、これまでに数多くの手術方法が考案されています。事実、犬の膝蓋骨脱臼に対する治療は特定のパターンですべてが対応できるわけではなく、症例の年齢(月齢)、体重、グレード、大腿四頭筋の発育障害または拘縮の程度、大腿脛関節の回旋不安定性の程度、そして大腿骨・脛骨の構造異常に応じて、複数の手術法を組み合わせる必要があります。その中でも、①脱臼側の緊張開放、②反対側の組織縫縮、③滑車溝再建、④回旋制動術、そして⑤脛骨粗面転移術は基本的手技として位置づけられます。これらの手技に加えて、大腿骨の矯正方法を修得することにより、ほぼすべての膝蓋骨脱臼の治療に対処することが可能となります。

今回、この整形外科実習コースでは、犬の膝蓋骨脱臼の治療(外科的整復術)を修得することを目的として、治療に対する考え方(集中講義)、そして中型犬の後肢プラスチックモデルを使用して3つの実習(滑車溝再建、回旋制動術、そして大腿骨の矯正骨切り術)を通じて「膝蓋骨脱臼の治療に関するGolden standard」を教えます。これから犬の膝蓋骨脱臼の治療法を真剣に学びたいと考えている先生には絶好の機会となると思います。特に整形外科治療法を極めたいと考えている若い先生には是非とも参加していただきたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。

実習のポイント

- 後肢膝蓋骨脱臼に対する一般的な治療法を習得する。
- 予習動画を視聴して、実習に臨むことができる。
- 予習動画で実習後も復習ができる。
- 骨模型は1人1肢を使用し、受講後に完成骨模型を持ち帰ることができる。
- パワーツール・実習器具は、3名に1組でご用意。
- 3名1組で、術者とアシスタントを体験。
- 18名限定の少人数形式で実施。